

◇ 関西学生陸上競技チャンピオンシップ ◇

日時:2021年5月20日～23日 於:たけびしスタジアム

【男子】

種目	R	順位	氏名(学年)	記録(風)	備考
100m	予		仁尾 航太(4)	10.96 (+0.0)	
			喜多 政天(M1)	DNS	
			高岡 祐大(4)	DNS	
200m	予		森脇 寛太(1)	DNS	
			400m	予	
			渡邊 拓海(2)	49.94	大学ベスト
			松下 亘騎(2)	50.01	自己新
			B決		高柳 正徳(M2)
800m	予		篠原 直生(2)	1'52"85	q 大学ベスト
			谷口 佳史(4)	1'56"86	
			南部 慎(M2)	2'00"45	
	B決	7位	篠原 直生(2)	1'54"51	
			1500m	予	
			谷垣 賢(4)	4'05"16	
			横谷 陸哉(2)	4'25"35	
			5000m	予	
			谷垣 賢(4)	15'45"41	
			10000m	予	
			若江 亮平(4)	33'28"47	
			110mH	予	
400mH	予		山科 真之介(2)	51"68	Q
			幡中 涼太(1)	55"91	
	決	7位	山科 真之介(2)	59"19	
			3000mSC	T決	
			若江 亮平(4)	10'04"74	
			10000mW	T決	
4×100mR	予			DNS	
4×400mR	予		高柳-山科- 渡邊-篠原	3'13"97	q 歴代5位
			決	8位	
走高跳	決	8位タイ	南川 魁生(3)	2m00	自己ベストタイ
走幅跳	決		木子 雄斗(1)	2m00	大学初
			前村 土温(2)	6m77 (+0.0)	
三段跳	決		安藤 寛峻(3)	14m36 (+2.2)	
砲丸投	決		矢野 大輔(3)	12m32	自己新 歴代8位
円盤投	決		矢野 大輔(3)	36m34	
やり投	決	8位	梶浦 雅之(4)	62m82	

男子4×400mR決勝 第8位

高柳正徳(M2)

4×400mで予選/決勝共に1走を務めました。

予選・決勝ともに最低限の役割は果たせたと思います。

今後より練習に励み、さらにタイムの向上をめざしたいと思います。応援、補助員などありがとうございました。

山科真之介(2)

400mHの方で体を痛めてしまい、そのままチームの足を引っ張ってしまいました。申し訳ございません。全力しては他を圧倒する走りチームを引っ張っていきます。

渡邊拓海(2)

4×400mリレーの3走を走りました。10月に行われる関西インカレでの優勝を考えた時に、2部校の中で最低限トップで走らなければいけないと考えていたので、そこはクリアできてよかったです。ただ、来年度以降の1部残留や、全国レベルの大会での入賞を目指していくうえで、決勝の舞台で勝負しきれなかったことは反省であり、悔しい思いです。これからも練習に励み、レベルアップしていきたいです。ご声援ありがとうございました。

松下亘騎(2)

4走を務めた2回の松下です。

大学初マイルで、雰囲気掴みきれず、走りを強く意識できませんでした。

個人・チームの課題点が多く見つかったので次に向けて頑張ります。

篠原直生(2)

予選のみの出場になりましたが、アンカーとして最低限、2着でゴールして、決勝に繋がったことは素直に嬉しいです。しかし、ラップタイムやレース展開など、個人としてまだまだチームに貢献できていない部分もあり、また、チームとしても全国で戦えるチームになっていくためにはとにかく正選手4人には安定した走りが求められることも痛感したので、今後、スピードを意識して、48秒台でバトンを繋げるよう、練習に励みたいと思います。応援ありがとうございました。

男子走高跳決勝 第8位タイ 南川魁生(3)

皆様お疲れ様でした。応援ありがとうございました。今回の大会では、今年の関西インカレではまだ戦えない人たちと共に競うことができて良かったと思います。しかしそれ以上に自己ベストの更新が達成できなかったことへの悔しい思いが勝ちました。今後の課題の他に感覚としては次につながりそうな感覚を得ることもできたので、また頑張っていこうと思います。

男子やり投決勝 第8位 梶浦雅之(4)

入賞を目標に試合に望みましたが、上位との差を強く感じました。

<入賞者コメント>

男子400mH決勝 第7位 山科真之介(2)

自分の調整力不足で走り切ることもできませんでした。情けないです。全力では大活躍してきます。

男子800mB決勝 第7位 篠原直生(2)

800mでこれまで納得のいくレースがなかなかできていなかった状況で、A決勝にあと一歩というタイムで走れたことは自分としても収穫のある大会になりました。しかし、2本目として走ったB決勝では一部との差を痛感するレースとなりました。順位や得点に拘っていくという点でも今後、勝負強さをテーマに練習を積みたいと思います。応援ありがとうございました。

【女子】

種目	R	順位	氏名(学年)	記録(風)	備考
200m	予		和三 はるか(4)	25"98 (-1.5)	
			準		
800m	予		小坂 みゆ海(4)	2'22"96	
1500m	予		仲野 由佳梨(M1)	4'51"45	
			小坂 みゆ海(4)	5'00"81	
5000m	T決		仲野 由佳梨(M1)	17'42"70	
100mH	予		和三 はるか(4)	14"23 (+0.7)	q 大学ベスト 全カレB 歴代2位タイ
			決	5位	
4×100m	予		臼井-和三- 小坂-山口莉	50"88	
			4×400m	予	
棒高跳	決	6位	田畑 奈都希(2)	3m40	
			臼井 晴香(4)	3m20	

<入賞者コメント>

女子100mH決勝 第5位 和三はるか(4)

100mHで5位に入賞させて頂きました、4回の和三です。予選で全カレB標準突破と大学ベスト更新することが出来ましたが、決勝では順位もタイムも下げてしまったので不甲斐ない結果となりました。ただ、調子が徐々に戻ってきたのは、大きな収穫だと思っているので、練習を積んでもっとパワーアップ出来るように頑張ります。応援ありがとうございました。

女子棒高跳決勝 第6位 田畑奈都希(2)

目標にしていた8位以内に入れたことは良かったですが、記録はまだまだなので、10月の関西インカレまでに順位も記録もあげられるよう頑張ります。

～ 幹部交代挨拶 ～

<前幹部挨拶>

・田上涼太(前主将)

前主将の田上涼太です。OB・OGの皆様、この1年間私たち新70回幹部をご支援くださり、誠にありがとうございました。これまでの幹部の取り組みや関西学生チャンピオンシップの分析、新幹部へ託すことをお伝えして退任のご挨拶といたします。

昨年の幹部交代は新型コロナウイルス感染症の第一波真只中で、試合はもちろん全体での活動さえ禁止されているという状況で私たち幹部の活動が始まりました。幹部として経験が浅いままで昨秋の関西インカレを迎えたときに何もできなかったという後悔から、今年度の関西インカレでは男子は必ず優勝をして1部に昇格するという思いで活動をしてきました。発達グラウンドの利用人数制限により全員が集まって練習する機会が減ってしまったため、チーム全体として関西インカレに向かうためにパートの垣根を超えて目標を共有したり意見を言い合うミーティングを昨年から重ねてきました。今年度の関西インカレロードの部では2名が入賞し、チームとして1部昇格に向けて勢いがついていることは間違いありません。

関西インカレの代替試合として開催されました関西学生チャンピオンシップにおきましては、10月に延期となった関西インカレを視野に入れたため、万全の状態ではない選手の棄権もありましたが、2部校を抽出した分析では摂南大学に次ぐ僅差の総合2位という結果で終えることができました。それと同時に1部との差を改めて痛感した大会でもあり、チームとして貴重な経験となりました。

今、神戸大学が2部で優勝して1部に昇格するために必要なこととして、全種目で上限の3名を揃えて本番で出場すること、全員が決勝またはベスト8に進出することの2点が挙げられます。コロナ禍の活動において以前のような活動ができることを待つのではなく、刻々と変化する状況に合わせて柔軟に対応していくことが必要です。新幹部にはコロナ禍を経験した私たち幹部の活動を踏まえて、新しい挑戦を続けてほしいと思います。

改めてOB・OGの皆様におかれましては、コロナ禍ということもあり対校戦へお越しいただくことができましたが、遠隔からのご声援や投擲サークルや跳躍ピットの設置にご支援いただき、誠にありがとうございました。引き続き、現役の神戸大学陸上競技部をどうぞよろしくお願いいたします。

・和三はるか(前女子主将)

前女子主将の和三はるかです。先月行われた関西学生チャンピオンシップでは女子総勢8名で挑み、私の代の目標であった、女子全員出場を達成することができ、得点分析よりも上乗せできた種目もあったことから、10月の関西インカレに良い流れが出来たのではないかと考えています。相変わらず女子の部員は少なく、リレー等は組むのが難しい状況となっておりますが、今回のチャンピオンシップでは長距離選手が4継の3走を力走してくれたり、種目間の多様性も広がっており、神大ならではの強みだとも感じております。

10月の関西インカレには、4年生がどれ程残るかは未定ですが、女子チームとして、新女子主将の前田を中心に頑張っていきたいと思っております。引き続き、ご声援をよろしくお願いいたします。

・岩佐氏聡(前主務)

前主務の岩佐氏聡です。OB、OGの皆様におかれましては、コロナ禍にも関わらず、投擲サークルや跳躍ピット設置をはじめとして、多大なご支援を頂き誠にありがとうございました。

この1年間の部運営に関しましては、多くの対校戦が中止、延期になったり、これまでのように部全体で集まって練習できない、など数多くの制約がありました。しかし、そのようなこれまで経験してこなかった状況の中で苦勞しつつも1年間乗り越えることができたのは、役員の方々をはじめとするOBOG会の皆様や、前田先生、西田先生にご協力、ご支援頂いたからだと考えております。重ね重ね御礼申し上げます。今後はこの1年の経験を活かして後輩の部運営に少しでも協力できるように努力して参ります。

今後もコロナ禍により、OB総会や対校戦等で実際にお会いして部の活躍をお伝えできる機会は少ないとは思いますが、引き続きご支援頂けますと幸いです。よろしくお願いいたします。私自身も部運営に携わりとても貴重な経験をさせていただきました。この経験は実社会でも生きてくると思います。ありがとうございました。

<新幹部挨拶>

・矢野大輔(新主将)

新主将の矢野大輔です。

これから1年間の陸上競技部の目標として「10月の関西インカレにて120点獲得・総合優勝・1部昇格、来年5月の関西インカレにて1部残留」という目標で取り組んでまいります。

まず前者については先日の関西学生チャンピオンシップにて、全種目が対校戦として開催されたことと仮定した上で得点を計算した結果を見ると、神戸大学は摂南大学に次ぐ2位となっております。この2校の間は僅差であり、今回の神戸大学としては4×100mリレーの棄権や主力選手の故障といった万全な状態ではなかった中で、1部昇格を考慮するうえで十分な結果を出していると考えています。この結果を踏まえ前幹部の目標を引き継ぐこととしました。この目標の達成のために10月までの対校戦などの試合の中で1人でも多くの標準記録切りを達成しチームの競技力を底上げしたうえで、関西インカレでは総合優勝及び1部昇格を確実なものにしていきます。

後者に関して現在の神戸大学では一部の選手は1部上位に入る実力を持っていますが、主要な選手の多くが1部入賞ラインに届いておらず、1部残留にはかなり距離がある状況だと認識しています。この1部残留ラインとの差を少しでも埋めるためには、1部昇格はまだ現実とまではいかないのですが1年前にあたる現時点から1部で勝負することを意識する必要がありますと考えています。そのためこの時点で目標の1つとして掲げ部員一丸となって取り組んでまいります。

今年も対校戦は多くが中止となってきています。そういう中、記録会等、数少ない競技会を有効に生かして実力をどう向上させていくか知恵を出していくつもりです。

以上のようにこれからの1年の中で2回関西インカレが開催されることになり、例年と異なる点が多くあります。しかし異例の状況の中でもすべき事は日々の練習です。地道な姿勢を大切にしつつ、創意と工夫で部員が陸上競技部という集団からより多くのものを得ることができる集団作りを心掛け、チームの競技力の向上に努めてまいります。

至らぬことが多くご迷惑をおかけするかもしれませんが、この1年間宜しくお願いたします。

・前田佳穂(新女子主将)

新女子主将の前田佳穂です。

今年度は4名の女子選手が入部してくれました。中には大学から陸上を始めた部員もいて、今後の成長と活躍に期待が高まります。今年度の目標として昨年同様本年10月に延期された関西インカレ全員出場・関西インカレ国立大学1位・全員自己ベスト更新をおあげしています。また、人数に余裕はありませんが、関西学生対校女子駅伝競走大会への出場を目指しております。このころメンバーが揃わず出場できませんでしたが新入部員のおかげで何とかメンバーが揃いそうです。メンバーのほとんどが初出場ですがエースの仲野を中心に良い成績を残せるように全力を尽くします。

また、神戸大学陸上競技部をさらに強い集団にするために、新主将の矢野に同じ姿勢で協力しながら精一杯努めさせていただきます。至らないことが多くご迷惑をおかけするかもしれませんが、1年間よろしくお願致します。

・荒堀功三(新主務)

新主務の荒堀功三です。

主務は部運営面での責任者という役職であり、OB会との調整の窓口でもあります。重要な手続きややり取りの多い役職だと認識しております。陸上競技部に対して大きな責任を背負っているという自覚を持ち、迷惑をかけることが無いように、さらには広い視野をもって必要な改善等にも取り組むよう頑張ります。

1年間よろしくお願致します。